



+ 医知創造ラボ

世界の「好感度」が、 米中で初めて逆転した

日本だけが世界と逆を行く理由を **データ** で読み解く



医知創造ラボ

監修：脳神経内科専門医

2026年7月

今日は医学を少し離れて、 世論調査と貿易統計を読み解きます

こんにちは、脳神経内科医の今村です。世論調査と貿易統計という一次データから、アメリカ・中国・日本の三角関係を読み解きます。

この動画でわかること

ニュースの見出しだけでは分らない、**日本の不思議な立ち位置**が見えてきます。

日本は 三層のねじれの中にある

結論

世論は対中警戒、安全保障はアメリカ、経済は中国。矛盾ではなくデータで説明できる均衡です。

本日のアジェンダ

1

世界で起きた「逆転」

Pew 2026年調査の中身

2

世界最下位の日本の対中感情

11%の背景にあるもの

3

それでも財布は中国

貿易統計が示す現実

CHAPTER

第1章

世界で起きた「逆転」

中国が米国を、約20年で初めて逆転



Pew Research Center・36か国・地域調査（成人42,151人）。25か国で中国が米国より好意的に見られ、米国優位は**わずか6か国**（日本・韓国・フィリピン・インドなど）。

逆転の主因は「アメリカの失速」

好感度の中央値	2025年	2026年
米国	48%	36% 12pt ↓
中国	38%	46% 8pt ↑

🔍 逆転の主な要因

トランプ関税政策への**不支持率77%**。中国の躍進より、米国の政策運営への不信が主因です。

CHAPTER

第2章

世界最下位の日本の対中感情

JAPAN'S OUTLIER POSITION

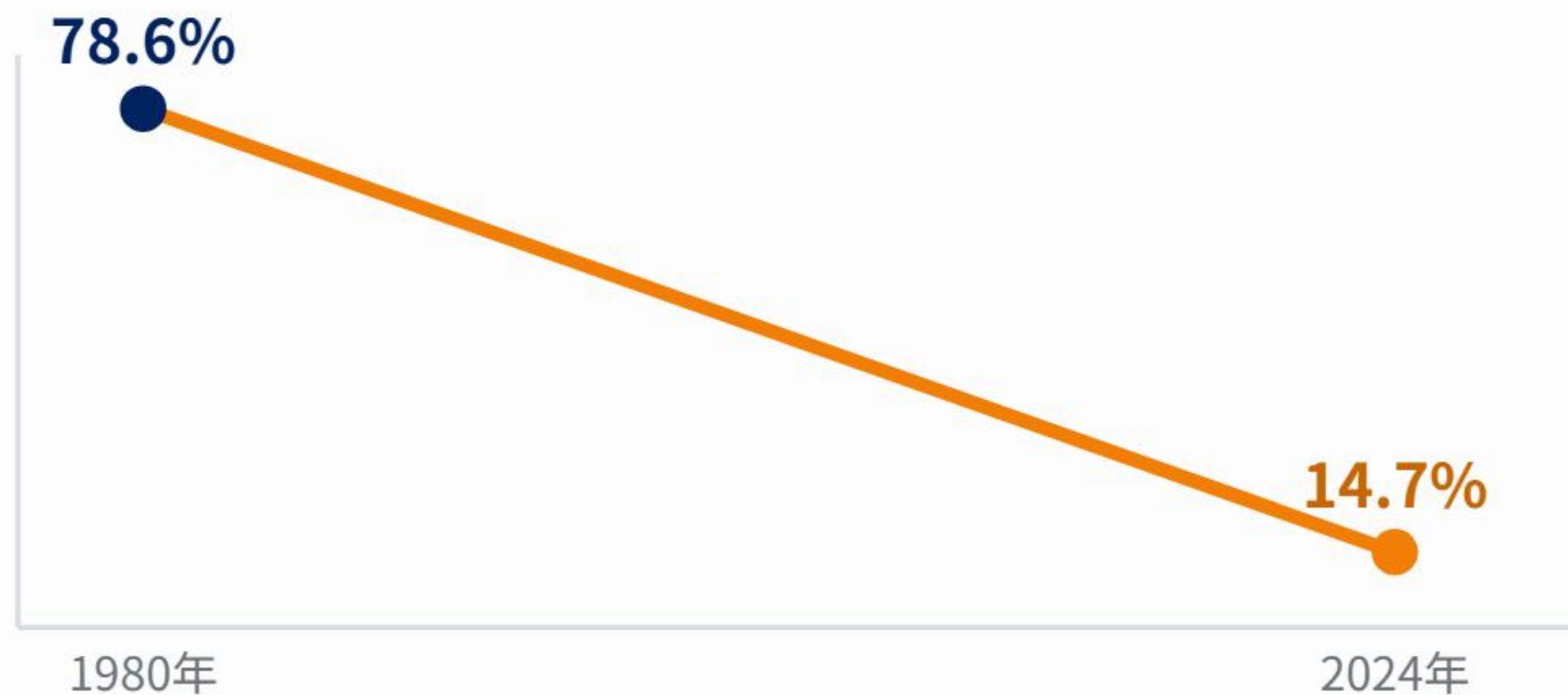
11%

⚠ 37か国・地域で最下位

日本人の対中好感度 対米は50%・差は39ポイント

信頼：トランプ大統領25% / 習近平国家主席7% | Pew Research Center, 2026年7月15日
公表（37か国・地域）

45年で、好感と警戒がほぼ入れ替わった



中国に「親しみを感じる」割合の推移（内閣府「外交に関する世論調査」）

対中警戒の背景にある「現場の接触」

⚠️ ① 尖閣周辺の中国船

2024年：355日確認 — 国有化後最多

⚠️ ② 尖閣周辺の中国船

2025年：357日確認 — さらに更新

⚠️ ③ 最長の連続領海侵入

2025年3月：92時間8分 — 国有化後最長

⚠️ ④ 在日米軍 兵力

約5万5000人 — 日米同盟の実効的な柱

📌 国家安全保障戦略は中国を「最大の戦略的挑戦」と位置づける

CHAPTER

第3章

それでも、財布は
中国とつながっている

最大の貿易相手は、世論で最も警戒される 中国

2025年（暦年）	輸出	輸入	総額
対中国	約18.8兆円	約26.7兆円	約45.5兆円
対米国	約20.4兆円	約12.9兆円	約33.3兆円

出所：財務省貿易統計（2025年は確々報ベース）。ただし輸出先はアメリカが1位。売る先は米国、買う先は中国という非対称な構造。

日本の現在地は三層のねじれ



世論：対中警戒

対中好感度11%（37か国・地域で最下位）



安全保障：アメリカ

在日米軍約5.5万人・国家安全保障戦略で中国を最大の脅威に



経済：中国が最大の相手

貿易総額 対中約45.5兆円 > 対米約33.3兆円

遠い国ほど経済の実利が効く

中国が米国を上回るポイント差（大きい順）

パキスタン 75pt

マレーシア 56pt

インドネシア 43pt

一方、米国優位が残ったのは日本・韓国・フィリピン・インドなど、中国との安全保障上の摩擦を抱える**わずか6か国**。

今日の3つの持ち帰りポイント

01

米国の 失速が主因

2026年の逆転は、中国の躍進より米国の政策運営への不信が主因でした。

02

感情論ではなく 長期トレンド

日本の対中警戒は、現場のデータに裏打ちされた数十年がかりの変化です。

03

財布は中国、 リスクは別物

最大の貿易相手は中国。中国リスクと米国リスクは、別物として冷静に見る必要があります。

ご視聴ありがとうございました



概要欄をチェック

参考資料の**一次データ**を掲載中



チャンネル登録

医療・社会の話を
お届けします



高評価で応援

次回も**お楽しみに**

この動画は、Pew Research Centerの調査や財務省・海上保安庁などの公
的統計をもとに構成しています。

医知創造ラボは、これからも社会・医療をデータで読み解きます。